

## 医師紹介



センター長 湯川 泰紹 医師

主な資格

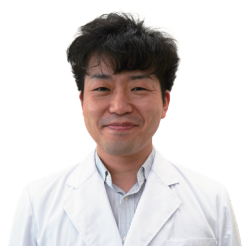
- ・日本整形外科学会 専門医  
脊椎脊髄病医  
脊椎内視鏡下手術技術認定医
- ・日本脊椎脊髄病学会 指導医
- ・AO Spine Japan 代表
- ・Best Doctor in Japan (2010-2023, 14年連続)



部長 加藤 文彦 医師

主な資格

- ・日本整形外科学会 専門医  
脊椎脊髄病医
- ・日本脊椎脊髄病学会 名誉指導医
- ・日本リハビリテーション医学会 専門医



渡邊 悠 医師

主な資格

- ・日本整形外科学会 専門医  
脊椎脊髄病医  
運動器リハビリテーション医

外来診療日時 9:00~12:00 (窓口受付/8:30~11:30)

月	火	水	木	金
湯川 泰紹	加藤 文彦	渡邊 悠	湯川 泰紹	—

## 当院までのアクセス

### マイカー

外来患者様の利便性向上のため、駐車場を病院周辺に4か所ご用意しております。外来患者様には、5時間無料の割引をさせていただきますので、「駐車券」を院内受付にご提示ください。

### 公共交通機関でお越しの方

#### 地下鉄高畑駅より

市バス「高畑13 (8番のりば) 野跡駅・港区役所行」(中川住宅下車すぐ)

#### 八田駅より (JR・近鉄・地下鉄)

市バス「高畑13 (1番のりば) 野跡駅・港区役所行」(中川住宅下車すぐ)



## 無料送迎シャトルバスを運行しております

地下鉄高畑駅と名古屋共立病院 外来棟の間で、無料送迎シャトルバスを運行しています。  
シャトルバス時刻表は名古屋共立病院 外来棟の受付またはホームページでご確認下さい



診療  
予約



052-353-9100

月曜から金曜 9:00~17:00 (祝日・年末年始を除く)

名古屋共立病院

2024.4

# 名古屋共立病院 脊椎・脊髄外科センター



背骨(せぼね)の病気でお困りの方へ

# 痛みなく自由に歩き回れることは 生きることの基本です

歩行に関する訴えとして、背骨に関するものは2つあります。1つは腰・臀部から下肢にかけて痛みやしびれが生じ歩きにくい、もしくは長距離を歩くことによりこれらの症状が出現して歩けなくなるもの（間欠跛行）です。もうひとつは、ふらつきやうまく足が出ずにつまづきやすくなることで歩行が不安定になるものです。前者は主に腰の病気から、後者は主に頸椎・胸椎の疾患からくることが多く、特に後者は見落とされがちで専門医の診察で初めて気づかれることがよくあります。



## 脊椎・脊髄外科センター センター長 湯川 泰紹 医師

### 【経歴】

前職は和歌山県立医科大学運動機能障害総合研究開発講座教授。脊椎・脊髄外科を専門とし、頸椎症性脊髄症や後縦靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症などの脊椎疾患の治療に数多く携わる（脊椎手術執刀件数3500例以上）。手術が必要な方には最小侵襲の脊椎内視鏡手術から金具を用いた脊椎固定術まで個々の患者様に合わせて最良の術式を提供し、背骨で困る患者さんの「最後の砦」となるべく努める。

### 【主な資格】

- ・日本整形外科学会 専門医、脊椎脊髄病医、脊椎内視鏡下手術技術認定医
- ・日本脊椎脊髄病学会 指導医
- ・AO Spine Japan 代表
- ・Best Doctor in Japan (2010-2023, 14年連続)

## 脊椎・脊髄外科センター概要

当センターは整形外科領域の中でも患者様の多い脊椎・脊髄疾患を中心に日本脊椎脊髄病学会に所属する3名の常勤医師（2名は脊椎外科指導医）が治療を行っています。

脊椎の中には脊髄神経が通っていますが、様々な原因でこの神経が障害され症状をきたします。これが要因となり痛みやしびれで日常生活が不自由になり、悪化すれば手足の麻痺に進行する場合があります。

腰椎椎間板ヘルニアなどで疼痛が主体の場合には保存療法（椎間板内注入療法、選択的神経根ブロック、ヘルニコア注射など）が原則で治療いたします。

十分な保存療法を行っても痛みが激しく、日常生活に支障を来たす場合や脱力、麻痺、排尿障害などがある時には手術治療を検討します。手術は、患者さんの早期の社会復帰を実現するため最新の術式を導入しており、従来手術法に加えて内視鏡手術も行っています。

## 主な対象疾患

- ・腰部脊柱管狭窄症
- ・腰椎椎間板ヘルニア
- ・頸椎症性脊髄症
- ・頸椎椎間板ヘルニア
- ・後縦靭帯骨化症
- ・脊髄腫瘍
- ・脊柱変形（首下がり、腰曲がり）

▼動画はこちらから



## 湯川医師の強み



私は早い時期から脊椎外科医の道を選択し、経験豊富な先輩先生方に各種治療・手術方法を学ぶだけでなく、自分でも積極的に修練を重ねてきました。そのかいあって、小児の脊柱変形を除くあらゆる脊椎・脊髄の疾患、外傷の治療を幅広く、そして数多く経験してきました。神経根ブロックや椎間板注射などの保存的治療はもちろんのこと、頭蓋から骨盤まで脊柱のすべての範囲で、前方、後方のどちらからでも手術を行うことができます。また脊椎内視鏡手術を含む除圧の手術から脊柱変形矯正のような大きな手術まで、あらゆる脊椎・脊髄の病態に対してすべての術式が制約なく提供できますので、患者様にとって最善の治療法・手術を提案いたします。

## 日々の生活で気を付けてほしいこと

日々の生活で気を付けていただきたいことは、後ろ向きに生きるのではなく前向きに生きていただきたいということです。例えば、脊椎・脊髄の疾患では重症化すると脱力や麻痺が生じます。これに対してはどんなにうまく手術を行っても、神経自体が変性してしまっているため十分な回復が得られないことがあります。しかしながら、さらなる悪化を防げたわけですので、多少不自由があってもそれにとらわれず前向きに生活したほうが楽しい人生が送っていただけると思います。



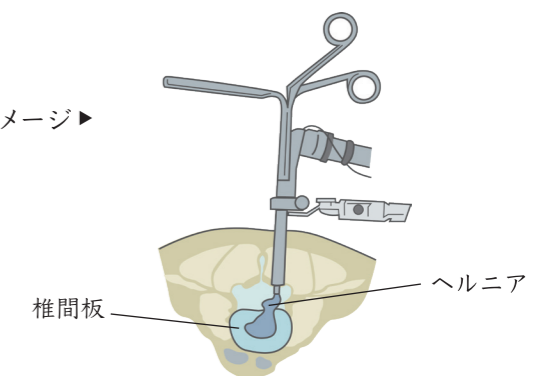
## Pick Up

### 脊椎内視鏡手術とは？

〈対象疾患〉  
腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症

脊椎の手術では神経を圧迫している部分の骨や靭帯を切除したり、椎間板ヘルニアを摘出することで神経の圧迫を解除することを目的に行います。脊椎内視鏡手術では約2cmの皮膚切開で円筒状の器具を挿入し、そこから内視鏡カメラにて視野を確保して、大画面モニターで確認しながら手術を行います。内視鏡手術の最も大きなメリットは、切開する範囲が少ないため筋肉などの組織への侵襲が少ないことです。筋肉をほとんどいためることなく手術が可能であり、術後感染のリスクも低減されています。当院では患者様の病態に応じて最適な手術法にて治療が可能です。

手術イメージ▶



### 椎間板ヘルニア

背骨の腰部の椎骨と椎骨の間でクッションの役割を果たしている軟骨（椎間板）が変性し、組織の一部が飛び出してしまった状態をヘルニアと呼びます。

